

檜の会

第 52 号

平成 31 年
(2019)

1 月 1 日

秋・冬
合併号

発行人 NPO 法人檜の会事務局

〒六〇五-〇八二 京都市東山区安井毘沙門町三三

TEL 〇七五-五五一-三六五三

FAX 〇七五-三二〇-一六三九

企画・編集 檜の会会報編集部
<http://hinokokai.or.jp/>

謹賀新年

NPO 法人檜の会理事長 安田紀美子

文化フォーラム

玉村 咏

会員の皆様には、お健やかに新年をお迎えの事と心よりお慶び申し上げます。

当会も昨年は発足 38 年、NPO 法人と成りまして 15 周年を迎えました。本当にあつという間で御座います。

昨年は 6 月に京都市・パリ市 60 周年友好記念式に参加。パリで会員の皆様と茶会を開催させて頂きました。パリ支局の友人にも心より感謝。

11 月は高台寺の文化フォーラム

(美術講演、奉納

舞)、12 月は檜の会東京支部開設記念・伝統美術工芸展開催。充実した事業を展開させて頂き総て無事成功裡に終了致しました。ご協力ご支援賜りました会員の皆様、ご後援下さるフアンの方々にご心より感謝申し上げます。

「檜」という大きなパワーと共に、先人



の方々の培われた伝統文化への想いを未来に繋げて行くべく活動をして参ります。檜の会東京支部も開設されました慶びと共に、檜の会が益々大きく羽ばたきます事を願い、本年の「亥歳」も皆様にとって素晴らしい歳と成りますようお願い申し上げます。

平成三十年十一月十一日、檜の会文化フォーラムが高台寺で催され染色に出逢えた幸せを語らせて戴きました。

何故五十年近くも続けて下さったのかを振り返らせて下さったこの会に心より感謝申し上げます。

染色は他の絵画と違い、滲んでいく絹に描かねばなりません。

滲むという事は思い通りに描きにくい事にも通じますが元々絵が嫌いな私にとってその事はなんの苦にもなりませんでした。

私の創った色が、絹にゆっくり静かに沁み込んでいくこと！ 良い発色をするようにと願ひ祈るような気持ちこそが染色の醍醐味のひとつでもあります。

染めの表現というものは、決して私の感性や技術だけではなく、染められたがっている絹の心情を汲み取りながら、一緒に歩むことだと気がついて以来、この仕事が天職となりました。

自分にしか表せない色のハーモニーが絹の繊維一本一本の奥の奥まで深く染まり輝くことこの出逢いこそが生きていることだと教えてくれた染色に感謝しながらこれからも生ある限り勉強していこうと改

めて思います。本当に有難うございました。



作品観賞会をふりかえって

高橋修二

檜の会としては初めての試みとなる作品観賞会を東京で開催しました。場所は、東京日本橋にあるギャラリー京・型・絵伊砂。期間は平成三十年十二月一日〜七日。観賞会は、伝統美術工芸展、匠の技と美」と題し、展示作品を観覧者が自由に想像して「楽しむ」を基本テーマにしました。「ここで観て・感じて」を意図した展示で、作品相互の独立性を高める為配置空間を工夫しました。作品は、伝統美術工芸分野で活躍中の会員作家さんに協力を仰ぎ、作品をお借りして展示しました。檜の会だから出来ることです。

多様多彩な伝統美術工芸作品を一堂に見られる機会はなかなかありません。また、東京の人に檜の会活動を知ってもらう意味でも意義ある作品観賞会であったと自負いたしております。会期中には作家によるギャラリートークを催し、作品作りにおける興味深い話を語りまた会場に質問に丁寧な説明いただきました。来場者からは作品への理解と関心がより一層深まったとの感想を聞きました。

この観賞会は、全国から人が集まる東京で檜の会活動を告知し、檜の会東京支部開設を目指す目的も兼ねておりましたが、第一回目のささやかな展示でしたが、近くの三井記念美術館関係者や象彦さん他京もの関係の事業者の来場もあり、広報的には満足のゆくものでした。反省すべきこととしては、告知が不十分で若者の来場が少なかつたことが次回の反省点としてあります。

(当会会員)



美術工芸展に参加して

伊砂正幸

12月に入り、NPO法人檜の会主催の伝統美術工芸展に参加しました。京都では、伝統工芸は、染織、陶芸、漆芸などの技術が数百年の間引き継がれています。檜の会では年に一度を目処に、このような伝統工芸を主とした展覧会「伝統文化の精華」を続けており、私もここ数年参加させていただいております。



今回は、私どもが運営をしている東京中央区、京・型・絵伊砂、日本橋ギャラリーを使っていたいただき、12月1日から7日までの期間、伝統美術工芸展、匠の技と美」を開催していただき、私自身も企画当初から参画させていただきました。

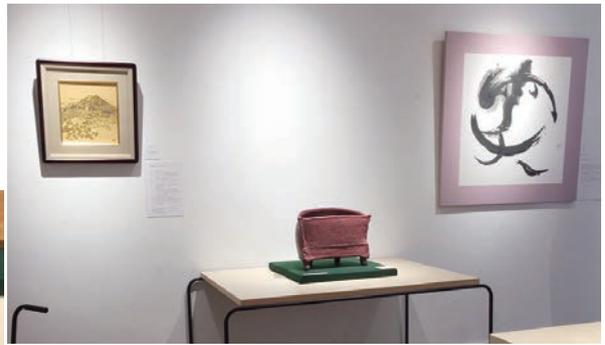
東京は、日本の経済や生活文化の中心な場所となっており、国内外から多くの人が学びの機会を求めて集まります。また、諸外国の大使館など公的機関が多くあり、京都の伝統を知っていただく展示会の場所としては最重要かと考えられます。

出品者は近藤富士金氏(箔美術工芸家)、山本晃久氏(鏡師)、山田豊子氏(乾漆作家)、片山雅美氏(陶芸作家)、島田耕園氏(御所人形作家)、玉村咏氏(染色作家)、小筆風外氏(書道)、出内あゆみ氏(絵画)、新井淑子氏(絵画)各氏と私。様々な技法で創られた作品が展示され来訪者の方々は興味深く鑑賞されてきました。また12月2日には近藤副理事長も来ていただき、開催日前日より飾り付けの為、お越しいただいている安田理事長とともに、喜田屋の田口氏、出品者、檜の会会員の方々と懇親会を開き楽しいひと時を過ごしました。

今後は、美術工芸作品の展示だけでなく、檜の会での京都を拠点に活動してきた伝統芸能との「芸術の融合」のテーマに、東京でも展開できるよう、また、これらの文化をより深く学んで次世代に伝承し、文化の国際交流の発展に貢献できればと思います。

最後になりましたが、協賛広告いただきました頃から本展の企画、広報、会場構成までリードしてくださいました高橋修二様、安田理事長をはじめ檜の会会員の方々、近藤副理事長をはじめ出展してくださいました先生方に御礼申し上げます。

(当会理事)



会員情報（予告）

◆ミニチュアール作品展（仮称）

（伊砂正幸出展）

日時：平成31年2月19日（火）～3月3日（日）

但し26日（火）は休

11時～19時（最終日～17時）

会場：ポルタギヤラリー華

（京都駅地下ポルタ内）

電話：075136517533

◆第39回京都工芸美術作家協会展

（伊砂正幸出展）

日時：平成31年3月12日（火）～17日（日）

10時～18時

会場：京都府立文化芸術会館

京都市上京区河原町通広小路角

電話：075122211046

◆玉村咏展

来し方行く末『日本の美色』

日時：平成31年3月30日（土）

～4月17日（日）10時～18時

会場：京都国際交流会館別館

〔和風別館〕

◆十三世林喜右衛門三回忌追善能

日時：2019年7月6日（土）

会場：京都観世会館

○

◆サロン・ド・ひのきギャラリー再開

「サロン・ド・ひのきギャラリー」では、

今後、檜の会会員の作品の常設展示を

行っていく予定です。

近くにお越しの節は是非お立ち寄り下さ

いませ。（京都・東山区毘沙門町33）

会員情報（報告）

◆林定期「能」

於：左京区京都観世会館

第4回 平成30年9月1日（土）

納会 平成30年12月2日（日）

午後12時半開演

◆伊砂正幸作品展

日時：平成30年9月15日（土）～20日（木）

場所：サロン・ド・ひのきギャラリー

◆近藤富士金 箔芸の世界展

日時：平成30年10月16日（火）～28日（日）

会場：ポルタギヤラリー華

洋の東西の伝統文化、金箔工芸の奥義

として富士金流《鎮金箔技法》の世界

を創案。

◆奉納舞

日時：平成30年10月16日（火）

秋色ひとしおの大原寂光院に於いて花

柳双喜美師（安田紀美子理事長）は法

要舞を奉納された。

◆「日本画博」BAKU小品展

日時：平成30年11月13日（火）～25日（日）

場所：ポルタギヤラリー華

〈出品者〉伊砂正幸・佐藤俊介・

中村賢次・山田毅

◆作家たちの「リース&オーナメント展」

日時：平成30年12月11日（火）～23日（日）

場所：ポルタギヤラリー華

国・宗教・ジャンルを越えた作家達の

自由な発想による暮らしを彩る飾りを

お楽しみ。全ての作品を購入可。

〈出品者〉（檜の会会員）

伊砂正幸・片山雅美・

出内あゆみ

報告

【臨時総会】

日時：平成30年12月10日（月）
午後2時～3時

会場：東山総合庁舎3階

ミーティングB会議室

東京事務所の設置に伴いNPO法人の定款を変更、総会報告書の提出のための臨時総会を開催。

安田紀美子理事長の挨拶に続いて田中重太郎理事を議長に選出、議事に入り

・第1号議案 定款変更の件

・第2号議案 30年度及翌年度の事業計画書(案) 承認の件

・第3号議案 30年度及翌年度の活動予算書(案) 承認の件

・第4号議案 議事録書名人の選任の件が順次上程され、野中理事の懇切な説明のあと慎重審議の上、全員賛成で承認された。

【臨時理事会】

日時：H30・10・6（土） 15時～17時

於：事務局

【協議会】

日時：H30・11・19（月）

於：事務局

○

【事業】（行事・催事）

◆ Challenge・能・Experience

内容：お話しと体験（出席者17名）

「能」の魅力について

「謡」と「すり足」を体験

日時：H30・9・8（土）18時～19時半

場所：安井金毘羅宮 金毘羅会館

◆文化フォーラム過去・現在・未来

美術講演と奉納舞

日時：平成30年11月11日（日）

午後1時～3時

会場：東山高台寺山内教化ホール

（1部）美術フォーラム

美術染色家 玉村咏氏

「来し方行く末」

講演「介護は母への感謝ありて」

（2部）奉納舞 地唄舞「雪」

花柳双喜美（安田紀美子理事長）

於：本堂（一般参加可）

終了後、続いて高台寺山内自由拝観

予告

◆芸術総合展

日時：平成31年3月16日（土）17日（日）

会場：京都市東山総合庁舎

◆芸能セミナー 檜の会東京主催

日時：平成31年3月30日（土）

会場：浅草澤田ビル3F

講師：常磐津都史氏他

「檜の会」会報原稿募集

会員の皆様からのお知らせなどを積極的に掲載いたします。催事の予定や参加行事、消息・ご意見など掲載したい記事を編集部までお寄せ下さい。

（編集部）

編集後記

◆昨年は『旅』ではパリへ行く時に「はるか」の中で地震に遭い3時間缶詰めとなったのはじめ、トランクのキャスタが壊れたり、旅先で物忘れをしたり、の三隣亡であったが、今年は何事にも良き運に恵まれることを望みたい。皆様にも良き年でありますように。

（奥村）

◆昨年の漢字一文字は「災」でした。当会会員の皆様の生活にも少なからぬ影響があったことと思われまふ。今年には愁いの無い年になるよう願っております。当会も東京事務所開設をひとつのステップとして、文化の継承・発展のためのお役に立てばうれしいことです。皆様のご協力をお願いします。

（中田）

◆NPOの活動の成果を、お伝えすることを使命に微力ながら皆様のご指導ご協力に支えられて、今日を迎えさせていただくことが出来ました。深甚の感謝を申し上げます。誠に有難うございました。今後とも変わらぬ御交誼をいただきますようお願いします。

（田中）

◆いよいよ平成最後の年となりました。平成には「国の内外、天地あまねく平和が達成されますように」という願いが込められていたようです。とても素晴らしい元号でした。新しい元号のもと、次の時代も日本が平和であるよう祈っております。

（澤田）

—NPO法人「檜の会」入会のご案内—

「檜の会」は日本の伝統芸能を守り楽しむ会として発足、日本の伝統芸能文化（古典芸能・民族音楽・美術工芸・文学など）を各分野の専門家から学び、新しい文化や芸能の息吹を京都から世界に発信できれば素晴らしいことだと思って活動を続けています。

【入会金及び会費】

正会員	(入会金)	(年会費)	賛助会員	(入会金)	(年会費)	学生会員	(入会金)	(年会費)
(個人)	2,000円	10,000円		1,000円	5,000円(1口)		免除	2,000円
(団体)	3,000円	20,000円		2,000円	10,000円(1口)			

【会員の特典】

伝統文化芸術・芸能の研修会や、ホールや劇場での鑑賞会にご案内またはご優待。「檜の会」会報誌の無料送付。

企画・編集：檜の会会報編集部
田中重太郎・中田節・奥村澄子・澤田有美
会報はホームページでもお読み頂けます。

編集部FAX：〇七五七二一四七七四

メール：alphankt@gmail.com